

# いずみさの昔と今 第248回

## 「病と闘う人に寄り添う郷土玩具」神農の虎」

現在開催中の夏季特別展示・館蔵品展「全国おもちゃ紀行」では、当館に所蔵している郷土玩具をテーマに沿って展示しています。「玩具」は、子どもの遊び道具としての意味のほか、人びとの願いや祈りが込められた縁起物のことを指します。さらに生産地独自の要素をもつものを「郷土玩具」と言い、その地域性の多様さを魅力のひとつとします。今回は、展示している郷土玩具の中から、「神農の虎」を紹介します。



写真の張子の虎は、薬の町として今も名を知られている大坂市中央区道修町

にある「少彦名神社」で授与されたものです。少彦名神社は中国医学の神様である「神農」を祀り、道修町の薬種屋から「神農さん」として信仰されています。そこで授与される張子の虎は「神農の虎」と呼ばれてお

り、神前にてお祓いを受けた張子の虎のお腹には「薬」の印が捺されています。



神農の虎は、伝染病のコレラと深い関わりがあります。コレラは、泉佐野市（佐野村）で明治初期に流行したという記録があるように、日本において江戸末期から明治初期にかけて何度か流行しています。神農の虎がつくられるようになったのは、文政5（1822）年に大坂でコレラが流行した時のことです。道修町の薬種屋が「虎頭殺鬼雄黄丸」という疫病除けの丸薬をつくり、あわせて病除けのお守りとして張子の虎を神前にて祈禱し、施与したことがはじまりといわれています。その後、コレラの流行が終わったあとも、少彦名神社で授与される張子の虎は、無病息災のお守りとして民衆の間で親しまれるようになりました。

神農の虎は、現在も毎年11月の神農祭で授かることができます。実際に生息する猛々しい虎とは違って、愛嬌のある顔をしており、ひとたび頭を動かせば首を上下にゆっくりと頷いてくれます。また、大きさも手のひらにおさまるくらいのもので、とてもかわいらしい印象を受けます。神農の虎は今も昔も変わらずに優しく頷きながら、病に苦しむ人びとのそばにいて、彼らの拠所として苦しみを背負っているのかもしれない。

夏季特別展示・館蔵品展「全国おもちゃ紀行」は、9月4日（日）まで開催しています。どこか懐かしく、あたたかみのある表情をもった「郷土玩具」。その魅力をぜひ当館で感じてください。みなさんのご来館をお待ちしています。

レイクアルスタープラザ・カワサキ歴史館いずみさの  
☎469-7140 Fax469-7141  
休館日 月曜日、祝日（祝日が月曜日の場合はその翌日、日曜日の場合はその翌々日）  
開館時間 午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）  
入館料 無料

消費生活センターだより

見守りリー→

相談受付 午前9時～午後4時30分

相談はお早めにセンターへ!!

南海線「泉佐野」駅前 ☎469-2240

### ぼったくりバーのトラブル

日来店させて支払わせたり、すでに何十倍も支払いをしていても「残金がある」などと、執拗に呼び出されてクレジットカードを何枚も作らされて、お金を取られるというケースもあります。あらゆる手段を講じて支払いを迫ってきます。

客引きの説明と違うと反論しても、客引きは店とは関係ないと主張されてしまいます。とりあえずその場から逃れようと思いついてクレジットカードを使った時に、暗証番号の入力やサインの記入がある場合は、保険の対象にならずそのまま請求されてしまいます。

客引きには絶対についていかず、不審な店には入らないようにしましょう

●SNSで知り合った女性が、キャバクラに誘うケースがあるので注意しましょう

●トラブルに遭ったらすぐ110番通報や近くの交番に相談しましょう

●不審な請求はクレジットカード会社に問い合わせをし、記憶が鮮明なうちにやり取りを記録しておきましょう

### 【事例】

客引きに「1時間3千円」と勧誘され、キャバクラに入った。1時間も経たない内に会計したが、チャージ料などで26万円も請求された。威圧的な店の男性に、コンビニのATMまで連れて行かれ、その場でお金を引き出し支払いをした。領収書も貰えない。

### 【解説】

繁華街でのいわゆるぼったくりバーに関する相談が、5年くらい前から、30〜40代の男性に増加しています。春先から秋にかけて被害が多いようです。

お店で寝てしまい、知らぬ間にクレジットカードを盗られて、何度もクレジットカード決済されていたり、身分証明書のコピーなどを取り、念書を書かせて後